

一宮市三岸節子記念美術館

三岸節子〈短歌ポスト〉入選作品（令和三年後期分）

選者 小塩卓哉（中部日本歌人会顧問）

【優秀作】

モンマルトルの階段

くろき窓いくつ見下す階段をモンマルトルの空へと上る

愛知県江南市 大塚 守明

〈評〉階段を見上げるような読者の視線は、絵の側からすると、階段を見下ろすようにも見えろ。平面としての絵画の奥行きを、二つの視線から描き出し得た歌だ。「空へと上る」は一種の誇張表現だが、階段の多いモンマルトルの街の風情を巧みに表現している。

アンダルシアの坂道

重ねてく筆の絵の具と坂道のアンダルシアの白い夏

愛知県津島市 長谷川 優

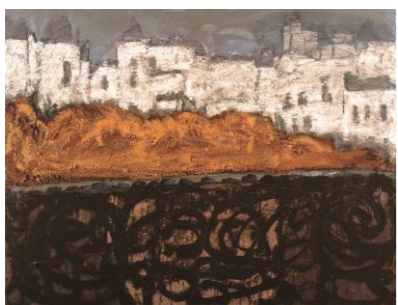
〈評〉絵筆を重ね塗ることで絵画は仕上がっていく。油絵のタッチは、見るものにその絵が仕上がっていく過程を想起させる。「重ねてく」は「重ねていく」の省略形だが、絵を見る作者の心の中のつぶやきを読者に想起させる。「白い夏」を節子は、丹念に創り上げたのだ。

イル・サンルイの秋

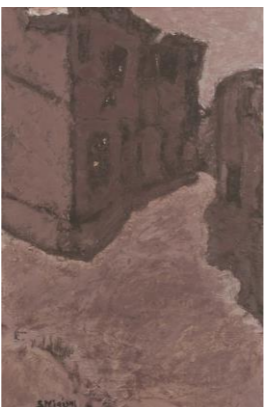
私の目にうつくしき秋とびこんでイル・サンルイに風はふきつつ

小牧市立味岡小学校 六年生 上野 有京

〈評〉節子の絵のもつ迫力を、作者は目に「とびこんで」くると表現している。しかも「うつくしき秋」が眼前に飛び込んでくるのだと。この表現自体迫力があると言えるだろう。結句の「風はふきつつ」は古典和歌の表現のようだが、欧州の風物を、日本的な抒情で受け止めている味わいがある。



三岸節子
《イル・サンルイの秋》
1987年 ©MIGISHI



三岸節子
《アンダルシアの坂道》
1987年 ©MIGISHI



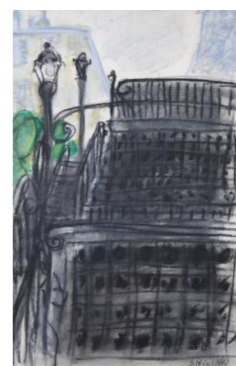
三岸節子
《モンマルトルの階段》
1980年代 ©MIGISHI
高輪画廊蔵

【佳作】

モンマルトルの階段

見上ぐれば光の白き丘のありこの階段の黒き急峻

愛知県犬山市 有本 仁政

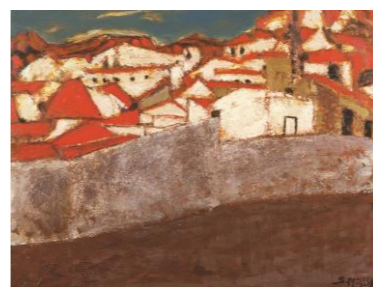


三岸節子
《モンマルトルの階段》
1980年代 ©MIGISHI
高輪画廊蔵

小さな町（アンダルシア）

赤と白まばゆく連なる家々は節子の旅路我も恋しく

愛知県一宮市 中島 克己



三岸節子
《小さな町（アンダルシア）》
1987年 ©MIGISHI

霧

うすもやをわけて吾行くゴンドラは船頭うたうカンツォーネと共に

愛知県稲沢市 大熊 信吾



三岸節子《霧》
1973年 ©MIGISHI

静物（1958年）

静けさはかくあるべしと思わせる静物画こそ楽しからずや

愛知県一宮市 渡辺 なごみ



三岸節子《静物》
1958年 ©MIGISHI

群がる馬

馬よ馬むらがるむれでなにしてるきれいな馬よおしえてくれよ

一宮市立末広小学校 三年生 辻川 雄貴



三岸節子《群がる馬》
1938年 ©MIGISHI